

CHAPTER

1

ラグビーワールドカップ[®]2019[™] 神奈川・横浜開催へ

アジアで初めて開催される「ラグビーワールドカップ2019日本大会」の神奈川・横浜開催が決定してから、神奈川県・横浜市や県・市ラグビーフットボール協会、民間企業、関係機関がスクラムを組み、大会開催に向けた準備を進めてきた。開催までの、そして開催期間中の日々を追う。





ラグビーワールドカップ 2019™ 日本大会 大会概要

- 大会名** ラグビーワールドカップ 2019™ 日本大会
- 大会組織委員会** 公益財団法人ラグビーワールドカップ2019組織委員会
- 関係組織** ワールドラグビー、ラグビーワールドカップリミテッド、公益財団法人日本ラグビーフットボール協会
- 大会日程** 2019年9月20日(金)～11月2日(土)
- 参加チーム** 20チーム
- 競技会場** 全国12会場
- 開催都市** 12都市19自治体
- 試合開催数** 45試合
(台風の影響で中止の3試合を除く)
- ファンゾーン会場** 12都市16会場



数字で見る開催実績

(観客動員数)
延べ**170**万
4,443人

(テレビ瞬間最高視聴率)
53.7%
日本対スコットランド
10/13 横浜国際総合競技場

(チケット販売)
約**184**万枚
販売率99.3% 大会史上過去最多
(中止3試合含む)

(ファンゾーン入場者数)
約**113**万
7,000人
大会史上過去最多

(海外観戦客数<推計>)
延べ**57**万
8,000人



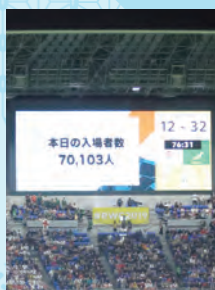


神奈川・横浜 開催概要

試合会場

横浜国際総合競技場

試合結果



No	日程	試合開始時間	プール	対戦	観客動員数
1	9月21日(土)	18:45	B	ニュージーランド 対 南アフリカ 23 - 13	63,649人
2	9月22日(日)	16:45	A	アイルランド 対 スコットランド 27 - 3	63,731人
-	10月12日(土)	17:15	C	イングランド 対 フランス 台風のため中止	-
3	10月13日(日)	19:45	A	日本 対 スコットランド 28 - 21	67,666人
4	10月26日(土)	17:00	準決勝1	イングランド 対 ニュージーランド 19 - 7	68,843人
5	10月27日(日)	18:00	準決勝2	ウェールズ 対 南アフリカ 16 - 19	67,750人
6	11月2日(土)	18:00	決勝	イングランド 対 南アフリカ 12 - 32	70,103人
合計					401,742人

ファンゾーン会場

臨港パーク
(横浜市西区みなとみらい1丁目)

ファンゾーン開催日数

13日間
(台風の影響で中止の10月12日、13日を除く)

数字 見る開催実績

(観客動員数)

6試合合計で

40万
1,742人

全会場総動員数の約23.5%

(決勝観客動員数)

7万103人

競技場史上最高を記録

※2002FIFAワールドカップ決勝は69,029人

(市民が選ぶ横浜10大ニュース)

2019年

第1位

(メディア露出)

広告価値換算額

359億円

※2019年4～12月 国内のみ

(ファンゾーン来場者数)

15万
3,700人

1日平均で約12,000人
(12開催都市16会場で最多)

(ファンゾーン ケータリング売上)

1億
3,391万円

ビール消費量は
14万6,431本 (350ml換算)

ラグビーワールドカップ2019™ 日本大会 神奈川・横浜開催への軌跡

2009年

7月 ラグビーワールドカップ2019™日本開催決定

2010年

11月 ラグビーワールドカップ2019組織委員会設立

2014年

10月 開催都市の募集開始

12月 神奈川県・横浜市が開催都市に立候補を表明

横浜市は一旦立候補を断念したものの、競技団体や県民・市民の後押しで、神奈川県と共同での立候補を表明し、募集の締め切り後であったが大会組織委員会がこれを受理した。

2015年

3月 神奈川県・横浜市が
開催都市に決定 (3月2日)

アイルランドのダブリンで開催されたラグビーワールドカップリミテッド理事会で承認された。横浜市内「ヨコハマNEWSハーバー」で、パブリックビューイングを開催し、決定の瞬間を大勢の人が見守った。



8月 「ラグビーワールドカップ2019開催基本契約」締結 (大会組織委員会、神奈川県、横浜市)

9月 ラグビーワールドカップ2015™開幕

(9月18日～10月31日)

県・市の視察団が、開催地イングランドで試合会場やファンゾーンを視察

横浜国際総合競技場が決勝会場に決定 (9月28日)

新国立競技場の工期延長に伴い、横浜国際総合競技場が決勝会場に決定した。

2016年

4月 ラグビーワールドカップリミテッド統括責任者が
横浜国際総合競技場を視察

決勝開催に相応しい会場として様々な課題が確認され、以後、会場整備を進めていくことになった。

ラグビーワールドカップ2019

東京2020オリンピック・パラリンピック横浜市推進本部設立 (4月25日)

本大会成功に向け全庁で取組む体制を整えるため、市長を本部長とし副市長、区局長を構成員とする推進組織を設立。さらに、特に重要なテーマについて、実務レベルで区局横断的にスピード感を持って集中的に検討するため、8つの副市長プロジェクトも設立した。

9月

開幕3年前

開幕3年前の節目にジャパンラグビートップリーグの開催にあわせた広報を展開

横浜国際総合競技場で初のラグビー公式戦

(ジャパンラグビートップリーグ) (9月10日)

初めてのラグビー公式戦で、芝の耐久性等の検証とあわせ、2019キックオフイベントin横浜を開催した。



10月

神奈川県がラグビー・オリパラ神奈川応援団を設立 (10月8日)

※正式名称「ラグビーワールドカップ2019及び東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会神奈川推進会議」

県及び県内市町村、スポーツ団体や公共交通機関、医療機関等関係団体で構成し、本大会成功に向け、オール神奈川で取組む体制を整えた。

11月

小学校訪問事業を開始 (11月14日)

ラグビー元日本代表選手などを講師として招き、講演やタグラグビーの実技指導を行った。以降、毎年度実施事業となる。

横浜市が横浜開催推進委員会を設立、同設立総会を開催 (11月17日)

※正式名称「ラグビーワールドカップ2019・東京2020オリンピック・パラリンピック横浜開催推進委員会」

市及び市会、経済団体、交通関係団体、医療機関、スポーツ関係団体などで構成し、本大会成功に向けオール横浜で取組む体制を整えた。



12月

公認チームキャンプ地選定プロセスに横浜市、神奈川県・藤沢市、厚木市、海老名市が応募

2017年

2月

決勝1000日前

決勝1000日前記念イベント開催 (2月5日)

決勝1000日前の節目にカウントダウンイベントを開催

ラグビーワールドカップ特別仕様ナンバープレート交付開始 (4月3日)

5月

ラグビーワールドカップ2019™ 開催自治体協議会会長に林文子横浜市長が就任 (5月10日)

「ラグビーワールドカップ2019™ プール組分け抽選会」(京都迎賓館) (5月10日)

安倍晋三内閣総理大臣や各界著名人のほか、林文子横浜市長もプレゼンターとして登壇し、抽選を行った。

ラグビーワールドカップリミテッドによるベニュービジット (会場視察) (5月23日)



7月

「ラグビーワールドカップ 2019™ 専門委員会」及び「東京 2020 オリンピック・パラリンピック専門委員会」第1回合同委員会開催 [横浜市] (7月5日)

9月

開幕2年前

開幕2年前の節目にカウントダウンイベントを開催

開催都市特別サポーター【神奈川県・横浜市】委嘱式 (9月18日)

大会2年前イベントにおいて、開催都市特別サポーターを委嘱した。
(開催都市特別サポーター)
林敏之氏 (男子ラグビー元日本代表)
吉田義人氏 (男子ラグビー元日本代表)
鈴木彩香氏 (女子ラグビー日本代表)

ラグビーワールドカップ 2019™
2年前イベント in YOKOHA



ラグビーワールドカップ2019™ラッピングバス (横浜市営) 運行開始 (9月19日)

ラグビーワールドカップリミテッドによるベニュービジット (会場視察) (9月29日)

10月

JR新横浜駅ペDESTリアンデッキにカウントダウンボード設置 (10月20日)

以降、節目にあわせて順次、各所にカウントダウンボードを設置していく。

11月

全試合の試合日程決定 (11月2日)

横浜市内「ヨコハマNEWSハーバー」において、東京で行われた発表会のパブリックビューイングを実施し、多くのファンが見守った。神奈川・横浜会場では、決勝を含む7試合が決定した。(うち、1試合は台風の影響で中止)

横浜国際総合競技場で初のラグビー国際試合 (11月4日)

「リポビタンDチャレンジカップ2017 日本代表対オーストラリア代表」が開催され、本大会へ向けたテストとして大会仕様を満たすためのフィールド拡張を実施した。



©JRFU

親子ラグビー教室事業を開始 (11月19日)

開催都市特別サポーターを務める吉田義人氏による、小学生以上の親子を対象としたラグビー教室を開催。以降、毎年度実施事業となる。

2018年

1月

大会公式マスコット「レンジー」発表 (1月26日)

チケット(セット券)の一般抽選販売開始

(1月27日～2月12日)



レン ジー

白い方は親の「レン」(Ren)、赤い方は子の「ジー」(G)。うれしいことがあると髪をぐるぐる回したり、レンジーダンスを踊る

3月

開催都市住民向け抽選販売開始 (3月19日～4月12日)

販売開始にあわせて開催都市として初のシティドレッシングを実施

ラグビーワールドカップリミテッドによるベニュービジット (会場視察) (3月23日)

「ラグビーワールドカップ 2019™専門委員会」及び「東京 2020 オリンピック・パラリンピック専門委員会」第2回合同委員会開催【横浜市】(3月26日)

交通輸送基本計画策定

危機管理基本計画策定

横浜国際総合競技場の競技用照明をLED化



4月 ラグビーワールドカップ2019組織委員会 神奈川・横浜地域支部 (LOC) 設立

横浜市、海老名市が 公認チームキャンプ地に内定 (4月20日)

大会ボランティア「TEAM NO-SIDE」募集開始 (4月23日～7月18日)

第1回医療救護検討部会 [横浜市] (4月24日)

本大会開催中、迅速確実な医療提供等を行うことにより万全を期すため、市内医療機関関係者からご意見をいただき、協議する場として部会 (横浜開催推進委員会の下部組織) を設立した。

特設ホームページ

「横浜ラグビー情報 ～YOKOHAMA・KANAGAWA RUGBY NEWS～」公開

ホームページのほか、SNSも運用開始

5月 開幕500日前

開幕500日前の節目にカウントダウンイベントを開催 (5月6日)



6月 横浜国際総合競技場 芝生フィールド全面 「ハイブリッド芝」張替 (6月26日～30日)

本大会での連日のラグビー競技実施に向け、天然芝と人工芝の補強材を組み合わせ、天然の芝に比べて芝表面の強度や耐久力が向上するハイブリッド芝に張替を行った。



8月 キヤノンラグビーウォールギャラリー掲出開始 (市営地下鉄関内駅) (8月17日)

9月 一般向け第一次チケット抽選販売開始 (9月19日～11月12日)

テロ対策合同訓練 (実働訓練、情報受伝達訓練) (9月12日)

横浜国際総合競技場において、テロ対策合同訓練を実施

開幕1年前

開幕1年前の節目にイベントや広報などの「開幕1年前キャンペーン」を展開。あわせて、「神奈川・横浜 観戦ガイド」も発行

10月 第1回交通輸送検討部会 [横浜市] (10月3日)

安全・円滑な交通輸送の実現のため、交通事業者など関係機関からご意見をいただき、協議する場として部会 (横浜開催推進委員会の下部組織) を設立した。

ラグビーワールドカップリミテッドによる開幕1年前のベニュービジット (会場視察) (10月19日)

横浜国際総合競技場で 「キヤノン ブレディスローカップ2018」 (10月27日)

「ニュージーランド代表対オーストラリア代表」。本大会開催を約1年後に控えたこの日、伝統の一戦が神奈川・横浜で行われた。大会仕様にあわせフィールド拡張を実施したほか、本大会と同じ「セブン&アイ・ホールディングス伊藤研修センター」に大会運営本部を設置し、案内誘導ボランティアの配置や案内デスクの設置など大会運営面のテストを実施した。



©JRFU

11月

決勝1年前

決勝1年前の節目にイベントやシティドレッシングなどを実施

ファンゾーンテストイベント 「みなとみらい RUGBY STADIUM 2018」開催 (11月3日)

ファンゾーン会場となる臨港パークで、「リポビタンDチャレンジカップ2018 日本代表対ニュージーランド代表」のパブリックビューイングのほか、ラグビーアクティビティや神奈川・横浜地元グルメをテーマにしたケータリングなど様々なコンテンツが楽しめるイベントを開催した。



「TEAM NO-SIDE」インタビューロードショー (11月30日～12月2日)

大会ボランティア候補者約1,700人を対象に、インタビュー（面接）を実施。自己紹介やゲームを織り交ぜたグループワークなどを行った。その結果を踏まえ、翌月に約1,500人を採用。



2019年

2月 「TEAM NO-SIDE」研修スタート (2月9日)

2月9日のオリエンテーションを皮切りに、ボランティアに対する各種研修が始まった。

3月 公認チームキャンプ地の 決定発表 (3月11日)

内定していた横浜市（アイルランド、スコットランド）、海老名市（ロシア）に加え、小田原市（オーストラリア）が追加された。

ラグビーワールドカップリミテッドによる
開幕半年前のベニュービジット（会場視察）(3月14日)

交通輸送実施計画策定

警備基本計画策定

危機管理計画策定



4月 「こどもラグビーワールドフェスティバル2019 supported by 三菱地所グループ」開催 (4月17日～22日)

世界7つの国と地域の子どもたちが参加し、ラグビーの試合を行ったほか、横浜市内の学校を訪問しての交流や、茶道・剣道などの日本文化体験も行われた。

5月 横浜国際総合競技場 仮設工事（記者席、実況席、コーチボックス）開始

大会組織委員会から示された仕様に沿って、記者席・実況席・コーチボックスの仮設整備を実施し、決勝に相応しい設備を整えた。

6月 「TEAM NO-SIDE」リーダートレーニング (6月7日、8日)

開幕100日前

開幕100日前の節目にカウントダウンイベントを開催

7月 「TEAM NO-SIDE」ロールトレーニング (7月5日、8日)

大会公式ゲストホスピタリティ施設設営開始 (7月9日)

ファンゾーン開催日を決定、発表 (7月10日)

大会開幕の9月20日から決勝の11月2日まで、臨港パークで毎週土日を中心に15日間開催することを発表した。
※うち2日間が台風の影響で中止となったため、実際の開催は13日間



横浜開催推進委員会と神奈川推進会議の合同総会を開催 (7月11日)

開幕を約2か月後に控えたこの日、横浜開催推進委員会とラグビー・オリバラ神奈川応援団の合同総会を開催し、大会の成功に向け、改めてオール神奈川・横浜の結束を確認した。

決勝100日前

決勝100日前の節目にカウントダウンイベントを開催

危機管理図上訓練実施 (情報受伝達訓練) (7月25日)

8月 シティドレッシング (都市装飾) 開始
(8月20日～11月4日)

大会を盛り上げ、街をラグビー一色に彩るシティドレッシングを開始。桜木町駅周辺、山下公園周辺、関内駅周辺、横浜駅周辺、新横浜駅周辺、小机駅周辺にバナー掲出を行った。

**テロ対策訓練実施 (実働訓練、情報受伝達訓練)** (8月21日)

本大会開催時の横浜国際総合競技場でのテロ発生を想定、実働訓練及び情報受伝達訓練を実施した。また、開催都市運営本部を設置する「セブン&アイ・ホールディングス伊藤研修センター」でも競技場内との情報受伝達訓練を実施し、発災時の対応を確認した。

9月 医療救護計画策定**横浜国際総合競技場
フィールド拡張工事開始** (9月2日)

本大会開催に向けて大会仕様を満たすため、フィールド拡張工事を実施した。



「日本のラグビー発祥地 横浜」の碑建立・除幕式 (9月5日)

警備実施計画策定

大会ボランティア「TEAM NO-SIDE」ユニフォームなど配付 (9月7日～9日)

大会ボランティア「TEAM NO-SIDE」ベニュートレーニング
(ファンゾーン周辺：9月7日～9日、競技場周辺：14日～16日)

ボランティアが実際に活動するエリアを歩きながら現地を確認する研修を開催し、いよいよ開幕が迫る本大会に向け準備を行った。

**横浜国際総合競技場 独占使用期間開始**
(9月11日～11月4日)**「巨大ラガーマン『Big Try』」(独自装飾)
設置** (9月19日～11月2日)

多くの方に写真を撮っていただき、神奈川・横浜での思い出とともに、世界中に神奈川・横浜の魅力を発信していただくため、桜木町駅前に巨大ラガーマンがトライを決めている大迫力のモニュメント「Big try」を設置した。

**ラグビーワールドカップ2019™開幕** (9月20日)**ファンゾーンが始まる** (9月20日)

オープニングイベントを開催し、神奈川・横浜のファンゾーンがいよいよ始まった。

**横浜国際総合競技場
初戦を迎える** (9月21日)

神奈川・横浜会場の初戦「ニュージーランド対南アフリカ」が開催された。



ラグビーワールドカップ 2019™ 日本大会 開催期間中の神奈川・横浜

開催準備は整った

● 都市装飾で街はラグビー一色に

日本で、神奈川・横浜で初めて開催されるラグビーワールドカップ。競技場周辺や横浜都心臨海部をはじめ県内各地に都市装飾が施された。

また、9月15日には新横浜町内会により新横浜駅前東広場に「新横浜ウェルカムモニュメント」が設置されたほか、開幕前日の9月19日には、桜木町駅前に巨大ラグーマンがトライを決めている大型モニュメント『Big Try』を設置し、ラグビーワールドカップ2019™の観戦に国内外から訪れる多くの人々を迎える準備が整った。



● 横浜国際総合競技場も大会仕様に

横浜国際総合競技場は、9月11日から大会組織委員会へ提供された。開幕に向けて状態を整えてきた芝生フィールドや仮設の記者席、実況席、コーチボックス、ホスピタリティ施設などの準備も整い、競技場内の各所は大会仕様に装飾された。あとは、9月21日の神奈川・横浜会場の初戦を待つばかり。



● ファンゾーンも準備万端

9月19日、翌日のオープンに先駆けメディア向けに完成したファンゾーンの中を公開した。元ラグビー日本代表の廣瀬俊朗氏らをゲストに招き全体のコンセプトや各種コンテンツを紹介。その様子は、各メディアで広く取り上げられた。

ラグビーワールドカップ2019™が いよいよ開幕

● 神奈川・横浜はファンゾーンから幕が上がる

9月20日、東京スタジアムで開会式が行われたこの日、『ラグビーワールドカップ2019 ファンゾーンin神奈川・横浜』がオープンした。準備を進めてきたボランティアも、いよいよ始動。

日本ではまだ馴染みが薄かった「ファンゾーン」が、日本で受け入れられるのか、外国人ファンがどれだけ神奈川・横浜ファンゾーンを訪れるのか未知数だったが、初日から予想をはるかに上回る8,800人が来場し、運営スタッフ、ケータリング事業者は嬉しい悲鳴をあげた。



● 横浜国際総合競技場で初戦を迎える

9月21日、神奈川・横浜会場の初戦、「ニュージーランド対南アフリカ」の試合が開催された。ホストシティパフォーマンスとして、神奈川県バトン協会・神奈川県マーチングバンド連盟の合同チームが演技を披露し、観客から温かい拍手が送られた。

ニュージーランドのハカから始まり、強豪チーム同士の激闘に63,649人が熱狂した。

安全・円滑な開催都市運営を全う

● 開催都市の役割

国内外から訪れる観戦客の皆様が安心して楽しんでいただけるよう、「開催都市大会運営本部」を「セブン&アイ・ホールディングス伊藤研修センター」に設置し、交通輸送、警備、医療救護、危機管理について万全の体制を整え、安全・円滑な大会運営を実施した。

● 交通輸送

ボランティアによる歩行者動線や案内デスクでの案内誘導、警備スタッフによる雑踏整理により、大会期間を通じて大きなトラブルもなく、安全・円滑に観戦客を競技場やファンゾーンまで誘導した。

● 大会警備

試合開始6時間前からラストマイル上に警備スタッフを配置し、雑踏整理や巡回警備を実施。入場ゲート前には長蛇の列ができたものの警備スタッフにより秩序が保たれた。

● 医療救護・危機管理

新横浜駅北口西広場に「場外救護所」を設置したほか、開催都市大会運営本部内に「派遣型医療チーム」を設置するなど、観戦客及び大会関係者の安全を確保した。

また、危機事案が発生した場合の被害を最小限にとどめるため、万全の危機管理体制を確立した。

開催期間中の盛り上がり



● 横浜国際総合競技場

神奈川・横浜会場では、台風で中止となった1試合を除き、計6試合が開催された。どの試合も大勢の観客で埋め尽くされ、激闘の数々に競技場は興奮と感動で包まれた。

● ファンゾーン

開催した13日間で約15万3,700人が来場したファンゾーン。予想をはるかに超える大盛況ぶりに、開催4日目からは、一部コンテンツの実施エリアを変更し、より多くの方がファンゾーンを楽しんでいただけるようにした。

また、ステージイベントやラグビーアクティビティ、ケータリング、地元PRブースなど各コンテンツも大変好評だった。



● おもてなしイベント

試合開催日には、新横浜駅北口西広場で「横浜ラグビーフェスタ2019」を開催した。外国人に人気を博した書道体験や出場国・地域のアンセムを歌うステージイベントなどを行い、大変賑わった。また、小机駅周辺では、「こづくえマルシェ」を開催し、国内外の観戦客をおもてなしした。



● ボランティアの活躍

ボランティアは、競技場やファンゾーン会場への案内誘導、ファンゾーンでの運営補助のほかにフォトフレームでの写真撮影などお客様へのおもてなしの役割も担い、大会を盛り上げた。



台風19号直撃と 日本代表の決勝トーナメント進出

● 台風19号の直撃

大会期間中の10月初旬、台風19号が発生し関東に直撃する見込みとなった。これを受け、10月10日、神奈川県・横浜市は、10月12日、13日のファンゾーンや横浜ラグビーフェスタ2019など当日イベントの中止を決定した。

また、同日、大会組織委員会からも10月12日に神奈川・横浜会場で開催予定だった「イングランド対フランス」の中止が発表された。一方、10月13日「日本対スコットランド」の開催可否は台風通過後の当日の朝に下される判断を待つこととなった。



● 台風直撃直後、歴史的瞬間の舞台となる

台風通過後の13日早朝、開催都市大会運営本部では周辺の被害状況の確認に奔走した。情報は競技場内の大会組織委員会に共有し、大会組織委員会は同10時45分、「様々な可能性を慎重に検討した結果、予定通り試合を開催することに決定した」と発表。

決勝トーナメント進出を賭けた「日本対スコットランド」の戦いは、28-21で日本が勝利し、神奈川・横浜はもちろん、日本中に感動の声が溢れ、横浜国際総合競技場は歴史的瞬間の舞台となった。



そして、決勝へ



● 横浜国際総合競技場は 決勝の特別仕様の装飾に

決勝を控えた横浜国際総合競技場は、決勝特別仕様の装飾にお色直しされた。いよいよ、神奈川・横浜で王者がウェブ・エリス・カップを掲げる時が迫っていた。イングランドか南アフリカか。両チームのファンも気合いが入る。

● ファンゾーンも最終日

9月20日のオープン以来、賑わい続けたファンゾーンも11月2日決勝が最後の開催。大会公式マスコットのレンジーも駆けつけ「レンジーと歌舞伎」をステージで披露し最後の1日を盛り上げた。また、東京2020オリンピック・パラリンピックの公式マスコットキャラクターのミライトワとソメイティも訪れ、翌年のオリンピック・パラリンピックへとバトンが繋がれた。



● そして、南アフリカ優勝の瞬間を迎えた



決勝「イングランド対南アフリカ」の戦いに競技場は熱気に包まれた。激闘の末、12-32で南アフリカが3度目の優勝。神奈川・横浜でウェブ・エリス・カップが高らかに掲げられた。その時、南アフリカファンは歓喜で絶叫し、イングランドファンは勝者を称える拍手を送っていた。

この日の入場者数は、本大会最高記録の70,103人。競技場としても2002FIFAワールドカップ決勝を上回る過去最高記録となり、ここ神奈川・横浜に新たな歴史が刻まれた。

世界トップレベルの運営

神奈川県・横浜市は、大会ボランティアや地元経済団体、公共交通機関、医療機関などとスクラムを組み、オール神奈川・横浜で開催に取り組み、安全・円滑な大会運営とホスピタリティあふれるおもてなしは、大会組織委員会から「世界トップレベル」と評価された。また、様々なおもてなしに街は国内外からの観戦客で賑わい、神奈川・横浜の魅力は広く海外へも発信された。この経験と絆をレガシーとして継承していく。

